

平成 30 年度

東京富士大学大学院 経営学研究科

一般入学試験 I 期

論 文

<注意>

1. この冊子には，問題文(2枚)と解答用紙(3枚)が綴じてあります.
2. 試験開始の合図があるまで問題・解答用紙を開いてはいけません.
3. この冊子の表紙にある受験番号，氏名欄を必ず記入下さい.
4. 解答は「横書き」「日本語」で記入のこと.
5. 原則として，この冊子は交換しませんので，注意して扱って下さい.
6. 試験終了後，この冊子は回収します.

受験番号	氏名

次の問題 1 から 8 の中から 2 問を選択し所定の用紙（各問題 400 字以内）に解答しなさい。  
また、選択した問題番号を○で囲みなさい。

1. 人的資源管理論における労働観について特徴を説明し、今日の働き方について考えを述べよ。
  
2. F.W.テイラーの科学的管理法とフォーダイズムについて論述しなさい。
  
3. 日本のバブル経済崩壊後の 1990 年代以降、日本企業の株式所有構造に大きな変化が現れてきた。その変化とはどのようなものと考えられるか。簡潔に記述しなさい。  
さらに、その上記の変化は、日本企業の経営にどのような影響を与えたと考えられるか。簡潔に記述しなさい。
  
4. ベンチャー企業は、金融機関からの借入金など、間接金融からの資金調達は困難であり、ベンチャーキャピタルなどからの直接金融に頼らざるをえないケースが多い。その理由は何かを説明せよ。
  
5. 法人税法における受取配当金等の益金不算入の規定について、その立法趣旨を説明し、その内容を述べなさい。

6. 確定決算主義について説明せよ。

7. 『棚卸資産の評価に関する会計基準』において、棚卸資産の評価方法として複数の会計処理方法（個別法、先入先出法、平均原価法、売価還元法）が認められている一方、現在、一部の企業で採用されている最終仕入原価法が、特定の場合にのみ「容認」（34-4）される方法と位置づけられている理由を説明しなさい。

8. 原価計算について

（1）活動基準原価計算の意義について、伝統的原価計算との違いを、資源ドライバー、活動ドライバーの2つの用語を用いて説明しなさい。

（2）下記のデータを用いて、製品Xと製品Yの製品原価を計算しなさい。

- ① 伝統的原価計算を用いて計算しなさい。なお、製造間接費の配賦基準は、直接労務費とする。
- ② 活動基準原価計算を用いて計算しなさい。
- ③ 伝統的原価計算と活動基準原価計算のそれぞれの計算の相違について、あなたが上記の①と②で計算した具体的な数値を示して論評しなさい。

製造間接費	金額	ドライバー	製品X	製品Y
段取り費	60,000円	ロット数	20ロット	4ロット
購買費	280,000円	材料受入回数	40回	10回
修繕費	100,000円	修繕回数	4回	1回
合計	440,000円			
直接費				
直接労務費			100,000円	400,000円
直接材料費			20,000円	15,000円
合計			220,000円	415,000円